

<金標準、利下げの次は政府機関の閉鎖懸念で信用リスクの高まり・・・>



(出所：オアシス)

注目されたFOMCでは、5回連続でFFレート誘導目標（政策金利）を据え置く事を続けてきたが、今回は雇用情勢の悪化を受け0.25%の引き下げを実施し、4～4.25%へ引き下げている。また経済予測では、年内更に2回の利下げを予測しているも、19名のメンバーのうち7名が年内利下げ0回を示しており、またパウエルFRB議長は次回の会合について「データ一次第」を繰り返している。そのため市場は思惑通りの利下げ実施であった事から利益確定に押される動きを見せるも、週末は米国議会の上院議会で10月1日に迫る政府機関の閉鎖に備え、上院議会で共和、民主両党がそれぞれ提出したつなぎ予算案がいずれも阻止され、上院議会は来週1週間の休会を予定しており、下院議会も10月1日以降まで休会を続ける計画である事から、事態打開を難しくしており政府機関の閉鎖に追い込まれる可能性が高まりを見せている。そのためFOMCを終えたが、更なる信用リスクが高まりを見せるドル安の要因だけに金価格を押し上げる動きが今しばらく続く可能性を秘めていると思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDが下げ渋り、シグナルは切り上げている。RCIは短期が下げ渋り、長期は高値を維持している。特に日足が指数平滑移動平均線を超えて存在し、指数平滑移動平均線も切り上げるなど高値追いの動きを示唆していると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取 1,955,000 円(2025 年 9 月 22 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいと、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり往復 84,480 円(2025 年 9 月 22 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>